題　目　　情報の信頼性を操作した，間接互恵性状況における情報伝達バイアスの検討

氏　名　　川村 樹

指導教員　高橋 伸幸

利他行動を適応論的な観点から説明する原理に，間接互恵性がある。間接互恵性は，行為者が他者に対して行った利他行動は回り回って別の他者から行為者に対して返報されるという仕組みである。これは例えば，他者に対して利他的に振る舞った人は，たとえ助けた相手から直接の返報がないとしても，周囲から「良い人」という評判を得ることで，将来他者から助けてもらえる可能性が高まるということである。そこで間接互恵性の成立条件を特定することに焦点を当てた理論研究では，どのような行動をとった人を「良い人」とみなし，行動を決定すれば間接互恵性が成立するのかが検討されてきた（*e. g.*, Nowak & Sigmund, 1998a, b; Ohtsuki & Iwasa, 2004; Takahashi & Mashima, 2006）。

しかし，そもそもある人の評判を形成するための「誰がどのような人にどのような行動をとったのか」という情報はどのように集団内に流通されるのだろうか。間接互恵性の理論研究では，人々が目撃した他者の行動を集団内で伝達し合うことで，評判の基盤となるすべての情報が集団内で共有されるという暗黙の前提のもとで検討がなされてきた。しかし，理論研究における，人々が目撃した他者の行動についての情報を常にすべて他者に伝達するといった前提はあまりにも強すぎる仮定ではないだろうか。真島他（2021）はこの点を指摘し，間接互恵性状況における人々の情報伝達行動について実証的な検討を行った。具体的には，渡し手が資源の提供相手を選んで行動を決定することが可能な間接互恵性状況において，回答者が対象人物の行動を目撃する場面を記述した場面想定法の質問紙実験を行った。シナリオでは，目撃する対象人物の行動について，その人物がどのような評判の持ち主だったのか（渡し手の事前評判：Good/Bad），その人物がどのような行動をとったのか（渡し手の行動：提供/非提供），その行動はどのような評判の持ち主に対する行動だったのか（受け手の評判：Good/Bad）が操作された（Ohtsuki & Iwasa, 2004）。目撃した対象人物の行動を他者へ伝達するかなどを主要な従属変数として測定し，間接互恵性状況における人々の情報伝達行動について探索的に検討した。その結果，「評判の良い人の行動を他言するのを避ける」「非提供行動を他言するのを避ける」という情報伝達バイ

アスの存在が示された。もしこのようなバイアスが存在する場合，評判を形成するために必要となるすべての情報が集団内で共有されている状態は実現されず，これを前提とした間接互恵性の成立条件に関する理論的結論は成立しない可能性がある。

しかし本研究では，真島他（2021）のシナリオにおける問題から間接互恵性の成立に寄与する人々の情報伝達行動を正確に測定できていなかった可能性を指摘する。真島他（2021）のシナリオでは，「ある評判の渡し手がある評判の受け手に対してある行動をとった」という一場面のみを提示していた。そのため，回答者は「たった一回目撃しただけであるならば，それは『たまたまとった行動』であるかもしれない」などのように，提示された情報を，行為者の行動傾向を示す情報としては信頼性の低い情報であると判断し，その結果他者へ伝達しなかった可能性がある。しかし，間接互恵性の成立においてより重要なのは，信頼性の低いような情報が伝達されることではなく，ある程度信頼性が高いと判断できる情報が伝達されることではないだろうか。つまり，間接互恵性を崩壊させうる情報伝達パターンは，信頼性の低い情報を提示した場合にのみ生じるものである可能性がある。信頼性の高い情報を提示した場合には，回答者の情報伝達パターンは異なったものとなり，それは間接互恵性が成立するかという結論に大きな影響を与える可能性がある。

そこで本研究では，真島他（2021）で操作した要因に，情報の信頼性（高/低）を加えた4つの要因を参加者間要因として操作し，16種類のシナリオを作成した。シナリオ提示後，その状況で目撃した渡し手の行動を他者に伝達しようと思うかを主要な従属変数として測定し，間接互恵性状況において，①人々は目撃したどのような行動を他者に伝達しようと思うのか，もしくは伝達しようと思わないのか，②その内容が情報の信頼性の高さによって異なるのかを検討した。その結果，①真島他（2021）で示された「Badな事前評判の渡し手の行動よりGoodな事前評判の渡し手の行動を他者へ伝達するのを控える」「提供行動より非提供行動を他者へ伝達するのを控える」という情報伝達バイアスの他に，「正当化できない非提供よりも正当化できる非提供を他者へ伝達するのを控える」「Goodな事前評判の渡し手がGoodな評判の受け手に行動する場合よりも，Goodな事前評判の渡し手がBadな評判の受け手に行動する場合の方を他者へ伝達するのを控える」という情報伝達バイアスが観察された。また，②情報の信頼性の高さによってその情報伝達パターンは変わらないことが示された。このことから本研究は，信頼性の高い情報であるかどうかに関わらず，間接互恵性状況における人々の情報伝達には間接互恵性の成立条件に関する理論的結論を崩壊させうるバイアスが存在する可能性を示した。